

第1章 弘前市景観計画の策定に当たって

1. 弘前市の風土

弘前市は、青森県の南西部、広大な津軽平野の南部に位置し、総面積 524. 20 km²と県全体の 5.43%を占めています。

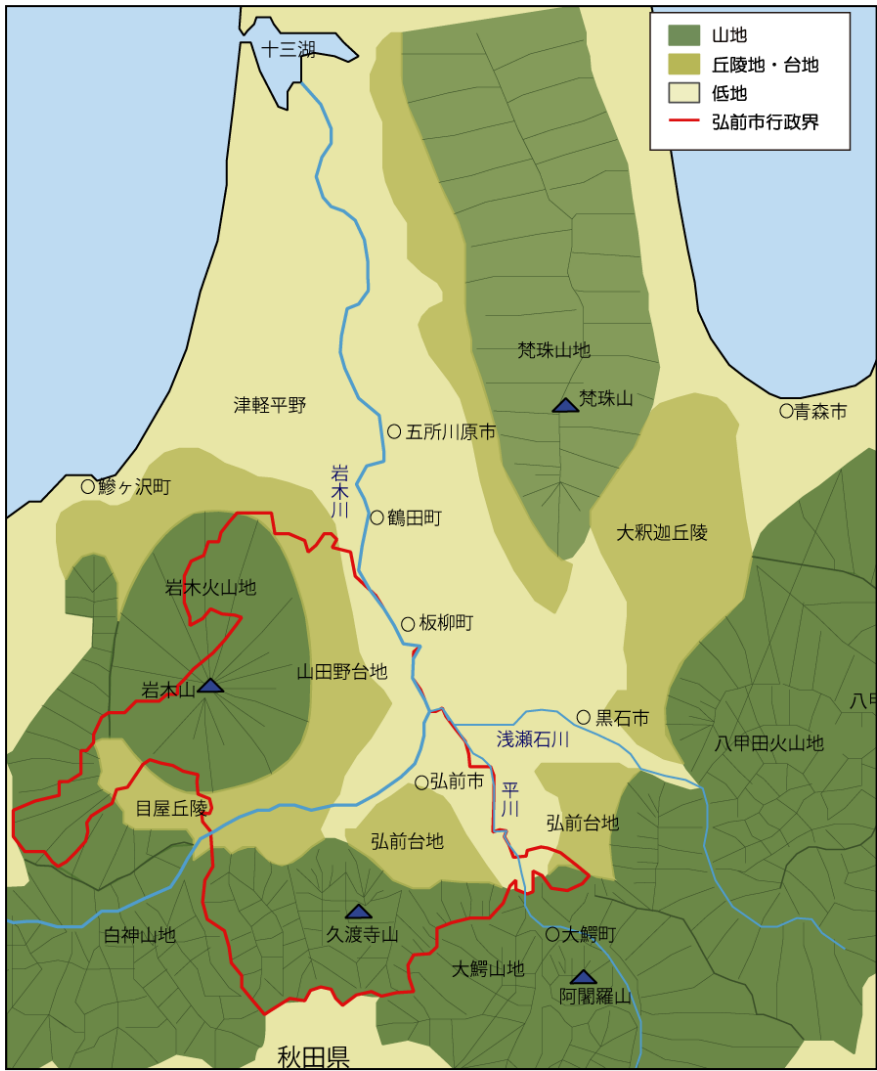
東に奥羽山脈の八甲田連峰を望み、南に世界遺産に登録されている白神山地が連なり、西に青森県最高峰の岩木山を有し、山々に抱かれた平野部においては、白神山地に源を発し、津軽平野を縦断し十三湖を経て日本海に注ぐ県内最大流域の岩木川が、約 30 kmにわたり緩やかに北流しています。

この岩木川には、平川、浅瀬石川などが合流し、その流域の肥沃で広大な津軽平野は、県内屈指の穀倉地帯となっています。

また平野に連なる丘陵地帯には、青森県の基幹農産物であるりんごの約 4 割を生産するりんご園が広がっています。

さらに、その地域を取り巻くように山林地帯が伸び、緑豊かな自然環境に恵まれています。

○地図：弘前市周辺の地形



2. まちづくりの歩み

(1) 武家屋敷と寺社、寺院街

全国の城下町の多くは、いわゆる戦国時代末期から江戸時代初期に創建されており、弘前も慶長8年(1603)、初代藩主津軽為信が城下の町割に着手し、慶長16年(1611)、2代藩主信枚のときに城下町が形づくられました。

18世紀初頭の侍屋敷の郭外移転に続き、武家の農村への移住などにより、城下は拡大・変容し、現在の城下町の町割がほぼ完成しました。

現在でも、藩政時代の街並みがよく残されているのは、弘前公園の北側に位置する**仲町伝統的建造物群保存地区**です。

仲町伝統的建造物群保存地区は、当時の地割の様子をよく残し、道路沿いに連続するサワラの生垣、点在する薬医門や板塀、茅葺や板葺の主屋など、武家町の景観を今に伝えています。



仲町伝統的建造物群保存地区

市街地を中心に、禅林街や新寺町寺院街のほか、弘前八幡宮や天満宮など多くの古寺社が残り、歴史的な趣を醸し出しているとともに、寺社林は地域に貴重な緑地空間を提供しています。

禅林街は、弘前城築城の翌年、2代藩主信枚が津軽一円から曹洞宗の寺院(禅寺)を結集させたもので、禅寺が林のように並んでいることからこのように呼ばれるようになりました。全国的に見て33もの同一宗派寺院が同じ場所に集まっているのはとても珍しく、さらに、参道の両側の杉並木が独特の落ち着いた雰囲気醸し出しています。



禅林街

新寺町寺院街は、慶安2年(1649)の火災で焼失した元寺町の寺院街を、城の南方防御のために新寺町に移転し形成されたものです。現在は、五重塔のある最勝院を始め、23カ寺が並び寺院街を形づくっています。

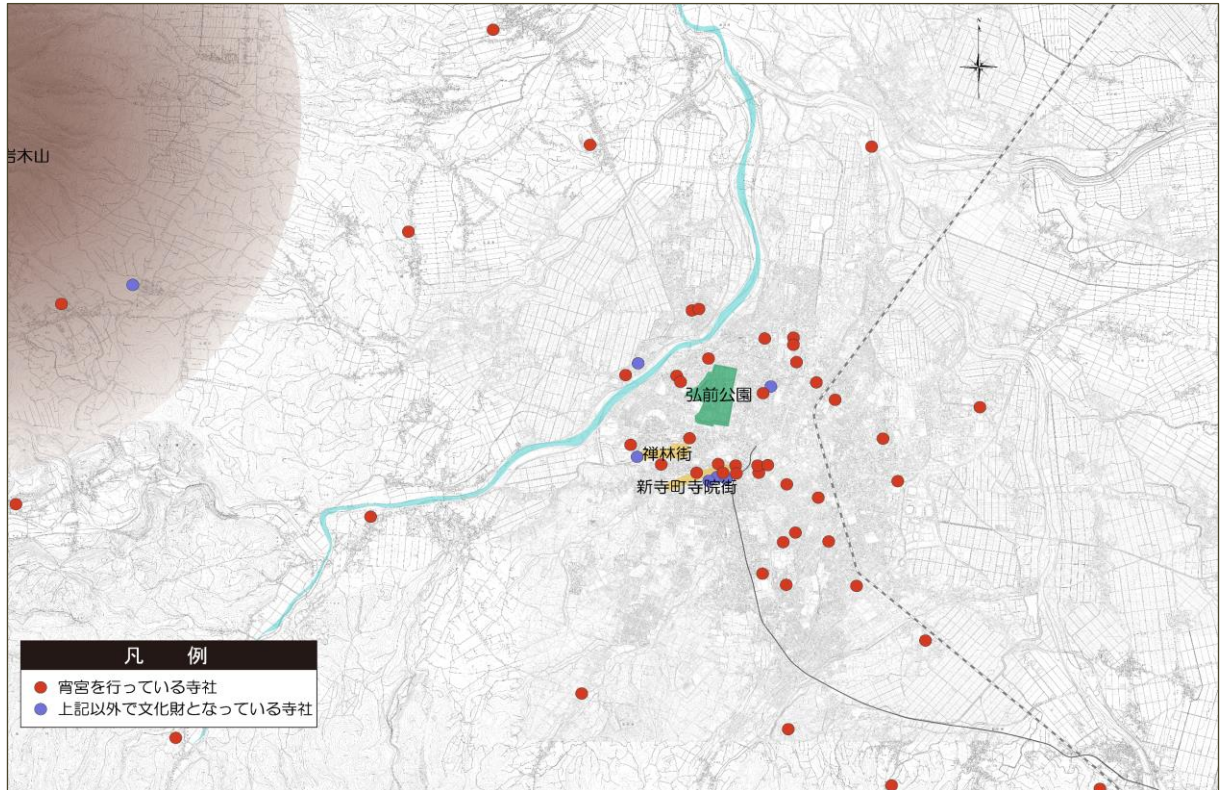


新寺町寺院街

津軽地方で「ヨミヤ」と呼ばれる寺社の祭りの前日に行われる宵宮は、多くの寺社が弘前市には残っていることもあり、初夏から初秋にかけて、ほぼ毎日のように開かれ、地域と密接に結びついています。露店が立ち並び、津軽神楽や獅子舞といった伝統芸能が奉納される神社もあり、夏の風物詩として親しまれ、市民が身近に歴史を感じることができます。

津軽地方の人々にとって「岩木山」はかけがえのないシンボルであり、古くから「お山（おやま）」や「お岩木様（おいわきさま）」と崇め親しまれてきましたが、「お山参詣」が現在の形式で行われるようになったのは藩政時代の中頃です。お山参詣は、旧暦の8月1日に「五穀豊穰」と「家内安全」を祈願して岩木山に集団登拝するもので、山麓の岩木山神社を拠点として行われる民間信仰行事です。

○地図：文化財となっている寺社及び宵宮が行われている寺社



(2)キリスト教の伝来

弘前市には数多くの洋風建築が残っています。

これは、弘前市が**キリスト教伝来の先進の地**であったことと深く関係しています。

旧藩校の流れを引き継ぎ明治5年(1872)に設立された東奥義塾は、開学当初から外国人教師が教鞭をとり、そのほとんどがキリスト教の宣教師であったため、同校を拠点に津軽地方へキリスト教や西洋文化が広がりました。

最も早いキリスト教関係の洋風建築は、明治15年(1882)に百石町小路の現在地に建てられた天主堂(現カトリック弘前教会)で、現存する会堂は、明治43年(1910)に再建されたものです。

元寺町の日本基督教団弘前教会教会堂は、明治39年(1906)に、クリスチャン棟梁と呼ばれた桜庭駒五郎¹の設計により再建されたものです。

また、山道町の日本聖公会弘前昇天教会は、明治33年(1900)に建てられ、大正9年(1920)に改築されたものです。正面上部の三葉飾りのアーチにある鐘は、今でも朝夕の祈りの時間に清澄な音で時を告げ、市民に親しまれています。

藩政時代に起源を持つ禅林街や新寺町寺院街、城下町の各所にある神社などと、明治以降に受け入れられたキリスト教を象徴する教会とが調和して、弘前市の特徴的な景観を形づくっています。



旧東奥義塾外人教師館



カトリック弘前教会



日本基督教団弘前教会教会堂



日本聖公会弘前昇天教会

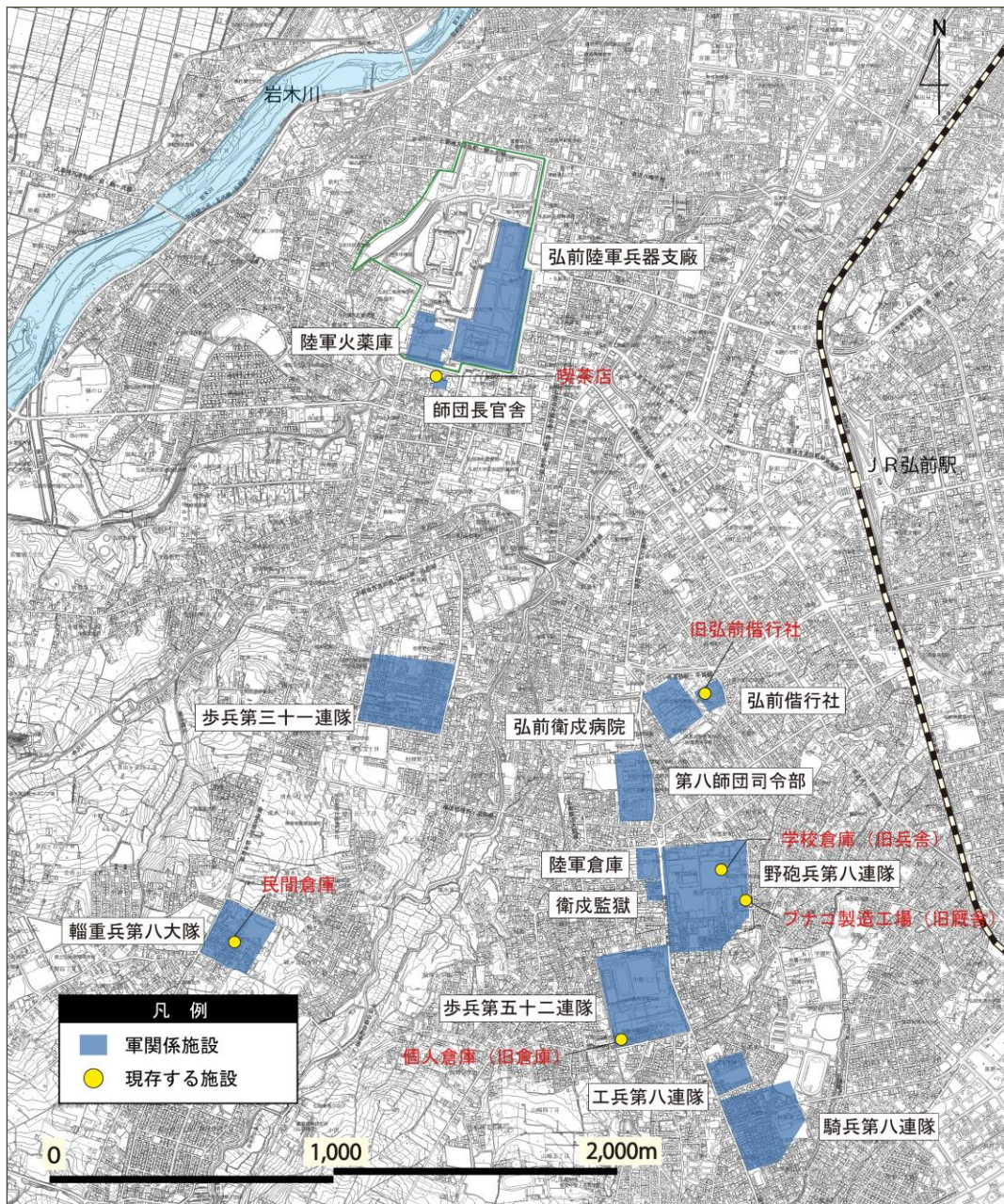
¹桜庭駒五郎(さくらばこまごろう、1871-1955) 旧中津軽郡和徳村(現弘前市)出身。日本基督教団弘前教会のほか、弘前学院外人宣教師館(1906年、重要文化財)や岡山県の津山基督教図書館など市内外のキリスト教関係施設を手掛け、クリスチャン棟梁とも呼ばれた。

(3)軍都としての歩み

明治4年(1871)7月の廃藩置県後に県庁が青森市に置かれて以来、政治の中心が青森市に移り、弘前市は経済的にも衰退の途をたどりましたが、明治27年(1894)の弘前～青森間の鉄道開通と明治31年(1898)の陸軍第八師団司令部の設置により、弘前市は再び経済活力を取り戻しました。

現在の中心市街地である土手町や元寺町などは、師団設置により商業の中心地として発展し、関連施設が多く設置された富田や桔梗野一帯の田園地帯は新たな市街地に生まれ変わり、近接する富田町や住吉町には、将校や下士官のための下宿屋や飲食店などが立ち並びました。

○地図：陸軍第八師団関連施設と現存する主な建造物



陸軍第八師団設置による経済効果が、建築ブームを引き起こすとともに、市街地の建築様式も変えていきました。以前は、商家も住宅も桎（まさ）葺きの屋根だったものが、次第に洋風建築や蔵造りなど都会風の外観に変わっていきます。

旧第五十九銀行本店本館は、棟梁・堀江佐吉²の手による明治時代を代表する洋風建築です。佐吉はこのほかにも、旧弘前市立図書館や将校の親睦・研修施設である旧弘前偕行社（現・弘前厚生学院記念館）を手掛けました。

明治後期から大正時代にかけての弘前市を代表する実業家・福島藤助³は、数多くの煉瓦造の建造物を手掛け、吉野町の煉瓦倉庫（現・弘前れんが倉庫美術館）や、富田町の煉瓦倉庫（現・弘前銘醸煉瓦倉庫）は、現在の街並みと調和して存在しています。

今では、旧軍関連施設の多くは残っていませんが、旧弘前偕行社や旧第八師団長官舎のほか、民間施設として活用されている施設が一部現存しています。

明治・大正期の建物や街並みは、弘前市が空襲を受けなかったことに加え⁴、建物疎開（空襲対象となるような建物を取り壊し、道路・水路などを確保すること）の規模が小さかったことで、比較的よく残されています。

特に、元寺町界隈、和風の石場旅館と洋風の日本基督教団弘前教会、津軽塗販売店の田中屋の黒塗りの柱と白壁、向かいにある東北で初期、弘前市で最古の鉄筋コンクリート造の三上ビル（旧弘前無尽社屋）は、**歴史の奥深さと弘前市民の進取の気質**を感じさせる街並みを形づくっています。

○地図：元寺町界隈の街なみ



昭和初期の鉄筋コンクリート造の三上ビル（旧弘前無尽社屋）



明治期の洋風建築；日本基督教団弘前教会教会堂（奥）と和風建築；石場旅館（手前）

²堀江佐吉（ほりえさきち、1845-1907） 弘前市出身。明治時代の青森県において数多くの洋風建築を手がけた大工棟梁。長男彦三郎（旧第八師団長官舎）を始めとする多くの弟子たちも活躍した。

³福島藤助（ふくしまとうすけ、1871-1925） 弘前市出身。大工から酒造業に転じる。近代的醸造法により、東北・北海道地区で首位の生産量を誇り、食品製造業や製糸業などにも進出した。

⁴弘前が第八師団という軍事的拠点があつたにもかかわらず空襲を受けなかった理由として、アメリカ人美術史家ランドン・ウォーナーが、弘前城を含む日本全国の文化財リストを作成し、爆撃目標から外すようアメリカ政府に提言したためとの説がある。

また、弘前れんが倉庫美術館周辺は、煉瓦倉庫、広々とした緑地、西側を流れる土淵川、川に沿って走る弘南鉄道、ここから眺める岩木山や五重塔など、空間的な奥行きが感じられる、市民憩いの場所となっています。

○地図：弘前れんが倉庫美術館周辺（吉野町）



弘前れんが倉庫美術館（改修中）と弘南鉄道、土淵川吉野町緑地

(4) 学園都市としての歩み

第2次大戦後、GHQの指令と新憲法の制定を受けて、全国的に軍事施設の解体が進められ、弘前市でも、**軍事施設・跡地の多くが学校施設に利用**されました。

弘前偕行社は弘前女子厚生学院（現・弘前厚生学院）に払い下げられ、現在も一部は校舎として活用されています。被服倉庫は弘前市立商業高校（現・県立弘前実業高校）移転の際の一時的な校舎として使用されましたが、後に取り壊されました。

第八師団司令部は、戦後、国立弘前大学農学部が内部を改造して使用していましたが、昭和42年(1967)に解体されました。

野砲兵第八連隊の各施設は、旧兵舎が私立柴田女子高校（現・私立柴田学園高校）の校舎として使用されるなど学校や病院などに活用されましたが、現在は、旧厩舎施設が弘前市の新たな工芸品・ブナコの工場などとして残るのみとなっています。

戦後の弘前市で、いち早く高校や大学などが開校し、国立大学法人弘前大学を始めとする5大学、1短期大学、9の高等学校を有する学都として生まれ変わることができたのは、終戦により主を失った軍用地や施設を学校施設として活用することができたからともいえます。

(5) 近代建築の巨匠・前川國男による公共建築群

弘前市の街並み景観を特徴づけている要素として、市内に数多く残されている近代建築が挙げられます。なかでも、日本を代表する近代建築の巨匠・**前川國男**⁵による建築物は弘前市の景観に大きな影響を与えています。

前川は、昭和3年(1928)に東京帝国大学工学部建築学科を卒業後、パリへ渡り、ル・コルビュジエ⁶の下で2年間学びましたが、その際、後見人となったのが、弘前市出身の伯父、佐藤尚武でした。

その後、前川は佐藤を通じて、当時、駐仏武官としてパリに在住していた弘前市出身の木村隆三と親交を深め、自身の処女作となる「木村産業研究所」(昭和7年(1932))の設計依頼を受けました。

以降、前川と弘前市の関係は緊密となり、「弘前中央高校講堂」(昭和29年(1954))や「弘前市庁舎」(昭和33年(1958))などの公共建築物を手がけ、弘前公園内や周辺を中心に、現在、8棟もの前川建築が残されています。

特に**木村産業研究所**は、コルビュジエに学んだ近代建築の要素を最大限に表現しており、当時、武家町の街並みが色濃く残り、閑静な住宅地であった在府町において、異彩を放っていました。後にドイツ人の世界的建築家・ブルーノ・タウト⁷が弘前市を訪れた際、「ど

⁵前川國男（まえかわくに お、1905-1986）は昭和期の建築家である。ル・コルビュジエの元で学び、帰国後は第二次世界大戦後の日本建築界をリードした。弘前の8つの建物のほか、代表作に東京文化会館など。

⁶ル・コルビュジエ（Le Corbusier、1887-1965）はスイスで生まれ、フランスを拠点に活動した建築家。平成28年（2016）建築作品が世界遺産に登録される。近代建築の三大巨匠と呼ばれる。

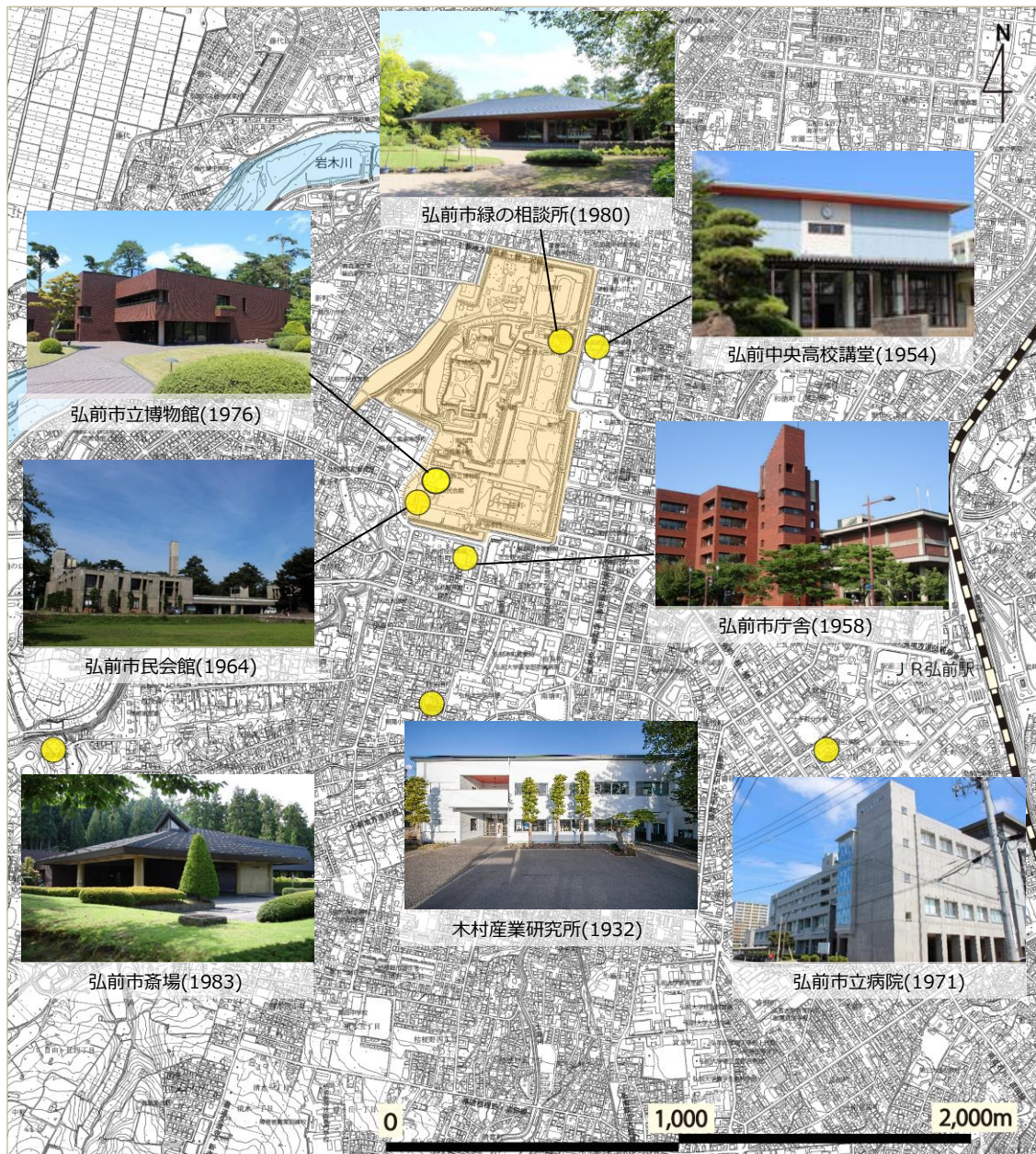
⁷ブルーノ・タウト（Bruno Julius Florian Taut、1880-1938）は戦前のドイツを代表する建築家。晩年、ナチス政権から亡命し、日本文化に巡り会う。

うして辺境の地に、コルビュジエ風の白亜の建物があるのか」と驚いたということです。

現在、木村産業研究所は、弘前市の伝統工芸・津軽こぎん刺しの制作拠点として、街並みにとけ込むとともに、古いものを大切にするだけではなく、新しく「ハイカラ」なものも取り入れて街並みをつくってきた弘前市民の気質を象徴する景観となっています。

また、弘前市斎場は岩木山の眺望や背後の杉山、まわりに広がるりんご畑に配慮し、弘前市民会館や弘前市立博物館、弘前市緑の相談所は公園内の自然に配慮されるなど、**周囲や背景との調和**が感じられる景観を形づくっています。

○地図：弘前市内の前川建築



3. 産業の概要

(1) 農業

弘前市の農業は、りんごと米が基幹作物です。

りんごは、明治初期、弘前市に紹介されて以来、先人の努力や栽培技術の進歩などにより、今では**日本一の産地**として、全国の約2割、青森県の約4割を生産し、市の農業産出額の約8割を占めています。

岩木山周辺の丘陵地や、市南部の丘陵地のアップルロード周辺などでは、岩木山を背景にりんご園が広がり、白い花を咲かせる春、青葉の緑があざやかな夏、赤い実をつける秋など、様々な表情を見せています。

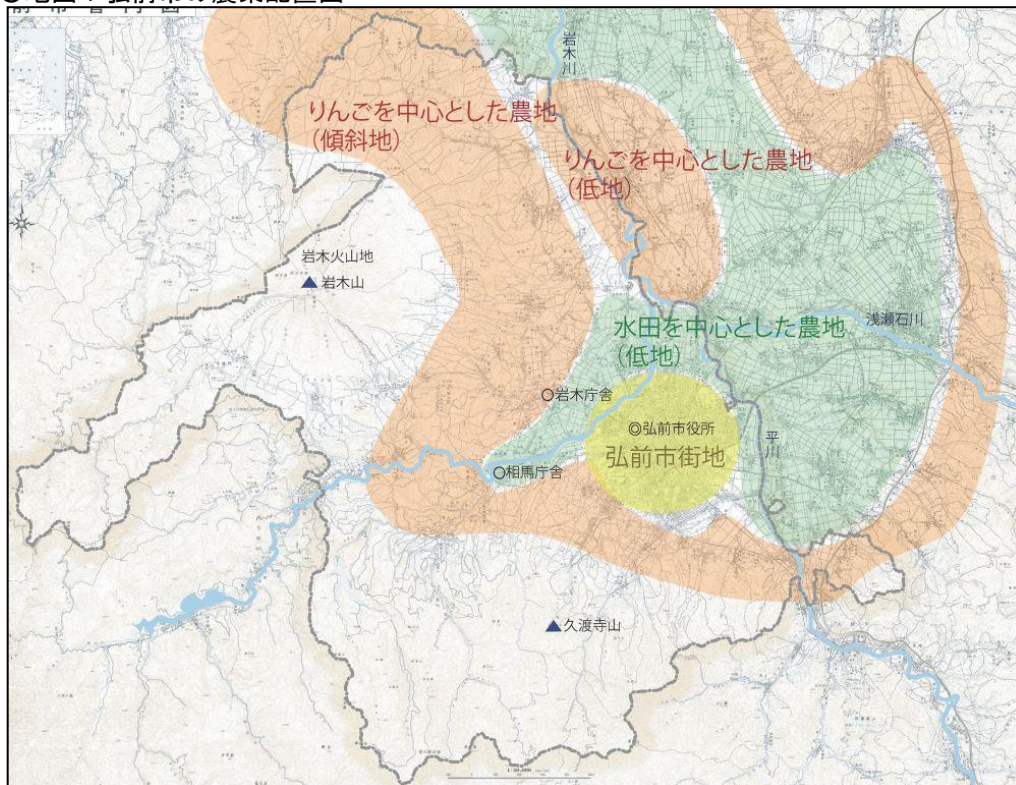
また、米は平野部を中心に栽培されており、国道7号周辺では、岩木山を背景にした四季折々の水田の風景を楽しむことができます。

このほか、岩木山周辺の丘陵部では、「**嶽（だけ）きみ**」と呼ばれるとうもろこし（スイートコーン）の栽培が盛んです。



嶽きみ畑と岩木山

○地図：弘前市の農業配置図



(2)商業

明治27年(1894)の弘前～青森間の鉄道開通と、明治31年(1898)の陸軍第八師団司令部が設置されたことにより、土手町が弘前市の商業の中心地としての役割を果たしてきました。また、弘前駅周辺は、戦後、土手町に次ぐ商店街となっていくます。しかし、車社会が発達し、郊外への大型店の立地、地域間競争の激化などにより、近年では土手町、駅前ともに、空き店舗や空き地が目立つようになっていきます。



土手町商店街



駅前商店街

(3)製造業など

市北東部の北和徳工業団地や藤代工業団地では、まとまった工場群を形成し、特に北和徳工業団地には、電気機械器具製造業などの誘致企業が中心となって立地しています。また、オフィス・アルカディア地区は業務団地として、健康・医療分野の企業や施設などが集積しています。



北和徳工業団地



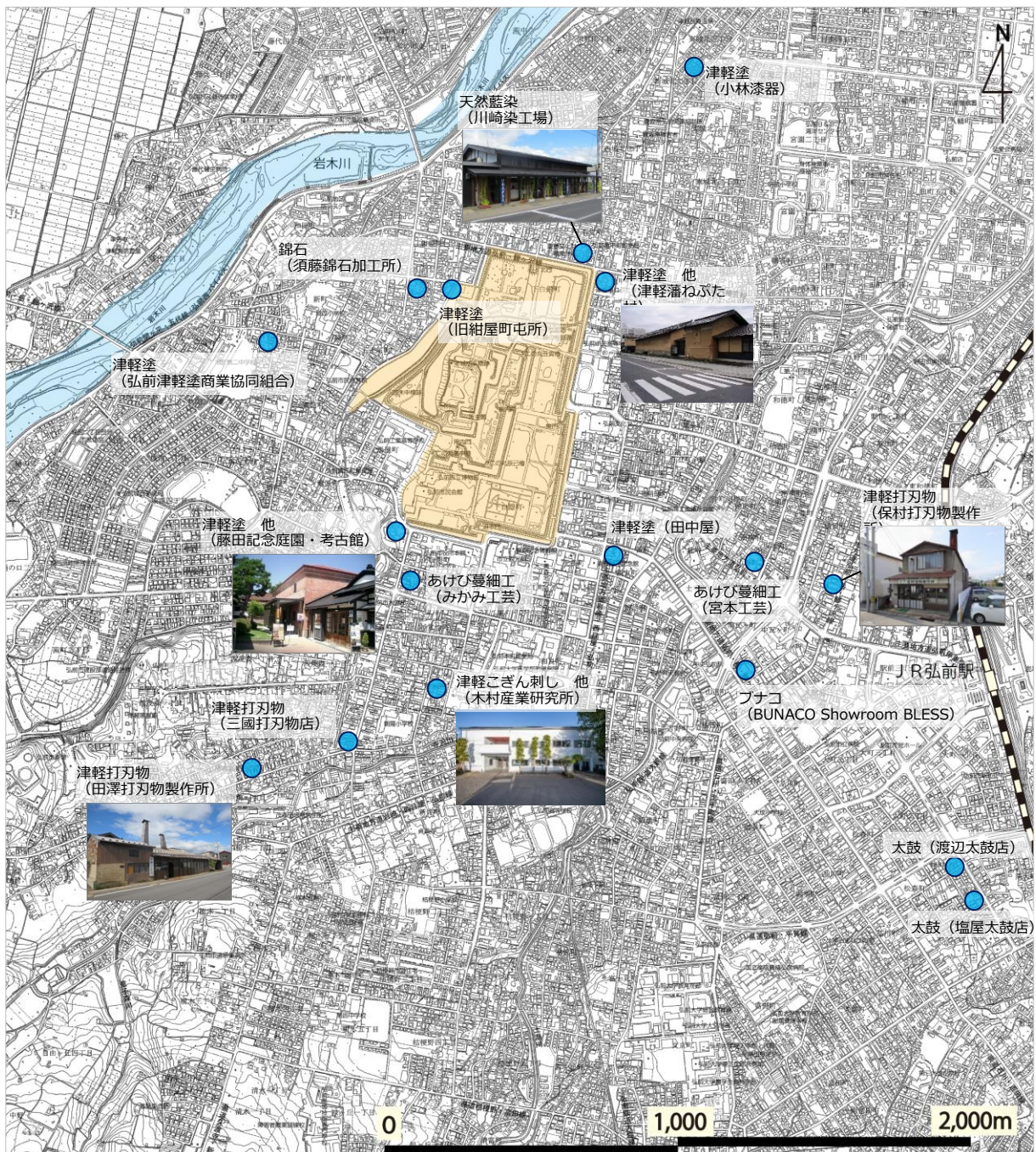
弘前オフィス・アルカディア

(4)伝統工芸など

弘前市には、伝統工芸品産業の産地指定を受けている津軽塗を始め、津軽焼、あけび蔓細工、津軽こぎん刺し、弘前こけし・木地玩具、津軽凧、天然藍染、津軽打刃物、津軽桐下駄、太鼓、鳩笛、錦石、ブナコ、根曲竹細工など、職人たちの手によりはぐくまれ、人々に愛されてきた数多くの伝統工芸があります。

津軽塗の田中屋や、天然藍染の川崎染工場、津軽打刃物の保村打刃物製作所と田澤刃物製作所、木村産業研究所、津軽藩ねぶた村（蔵）などは、市指定の「趣のある建物」や登録有形文化財に指定されており、城下町の風情を伝えています。

○地図：伝統工芸の工房などの分布図（市中心部）



4. 景観づくりのこれまでの歩み

弘前市の景観の特徴は、東に八甲田山、南に白神山地、西に岩木山と、山々に三方を囲まれ、岩木川が津軽平野を形成しながら市街地へ流れ込む、豊かな自然に恵まれていることにあります。

これらの自然の恵みを生かし、りんごや稲作を中心とした農業が行われており、郊外部では、牧歌的な農村風景が広がっています。

さらに、市街地には、歴史的建造物が弘前公園の周辺を中心に残されており、落ち着いた雰囲気醸し出しています。

弘前市で、景観の変化が意識されるようになったのは、高度成長期以降です。都市化や建築物の高層化、郊外への大型小売店の立地により、歴史的街並みの喪失や弘前市街地からの岩木山への眺望景観の阻害、屋外広告物の乱立などが進みました。

さらに、時代はバブル期を経て、低成長時代へと推移し、制度的にも規制緩和が推し進められ、中心市街地での商店街の衰退や空き家・空き地化が進展するなど、景観上の変化がより大きくなってきました。

このような中で、合併前の旧弘前市では、自然や歴史に恵まれた景観を守るために、平成2年(1990)、景観づくりの指針となる「都市景観ガイドプラン」を策定するとともに、平成6年(1994)には県内初の「都市景観条例」(自主条例)を制定し、景観政策に取り組んできました。

都市景観条例では、市全域を対象として、一定の規模を超える建築物や工作物に対する事前届出制度を実施し、景観に調和しない計画などに対し、指導等を行ってきました。

また、快適な住空間づくりや魅力的な商業空間づくりを推進するために、市内18箇所に都市計画法に基づく地区計画を定め、建築物の壁面の位置や形態意匠などの規制を行ってきました。

さらに、平成元年(1989)からは毎年のように「都市景観フォーラム」を開催するなど、市民と協働で景観づくりを進めています。

5. 景観計画策定の目的

都市景観条例による事前届出制度は一定の役割を果たしてきましたが、規制・誘導の範囲が限定的であったことから、**新たな取り組み**が求められていました。

平成17年(2005)6月に施行された**景観法**は、我が国で初めての景観に関する総合的な法律で、これまでの地方公共団体の取り組みを踏まえ、良好な景観づくりに関する基本理念や、行政、事業者及び市民の責務を明らかにするとともに、法による規制・誘導の枠組みを用意したものです。

市では、景観法に基づく景観計画を策定することにより、法の枠組みを活用した規制・誘導を行うほか、目指すべき景観の目標像を定め、市民・事業者・行政の景観づくりに対する意識を共有することで、**より効果的で実効性のある施策**を実施していきます。

○ (参考) 景観法

(目的)

第1条 この法律は、我が国の都市、農山漁村等における良好な景観の形成を促進するため、景観計画の策定その他の施策を総合的に講ずることにより、美しく風格のある国土の形成、潤いのある豊かな生活環境の創造及び個性的で活力ある地域社会の実現を図り、もって国民生活の向上並びに国民経済及び地域社会の健全な発展に寄与することを目的とする。

6. 景観計画の位置づけ（関係計画など）

本計画は、「弘前市総合計画」を踏まえて、市民の意見を参考に景観の特性や課題を整理し、創意工夫のもとで、より良い景観づくりを実現するための指針や手段を示しています。

行政や、市民、事業者などがこの計画に沿い、景観に配慮して土地利用や建築などの行為を行うこととなります。

そして、この計画を実効性のあるものとするために、市では、**市民や事業者の理解を得て、協働して**景観づくりを進めていくほか、他の部門別計画との整合を図りながら施策を展開していきます。

なお、市の総合計画や各種計画との関係は次のとおりです。

○図：各種計画との関係

